

【浜松湖北高校】 あそびこども園でミカンの販売会を実施

若者のアイデア生かそう

ミカン箱デザイン一新 静岡県立浜松湖北高が校外販売



リニューアルした3*箱や袋でミカンを販売する生徒①

静岡県立浜松湖北高校は11月下旬、浜松市の認定こども園「あそびこども園浜松」で、同校で生徒が栽培した早生ミカンや加工品を販売した。校外での販売実習は昨年以降の第2回目。本年はミカン箱をリニューアルし、若い世代をターゲットに据えた販売をした。

昨年は地元の特産局で販売し、完売するなど好評だった。ただ、高齢者の購入が多く、本年は若い世代の購買促進を狙った。今回は、ミカン箱を5*から3*に小さくして、手土産にしやすいよう取っ手を付け、「ミカン」の文字を入れないなど、デザインを一新した。

デザインした産業マネジメント科（農業科）3年の宮本楓さんは「写真に撮ってきれいで、手に取りやすくてかわいいデザインにした」と話す。同科が栽培したミカン25箱（1箱3*）と12

0袋（1袋700g）、ミカンを使ったマフィン104個、ジャム（1個185g）78個を販売した。3*箱についてのアンケートも実施した。

（商業科）の生徒が接客販売し、園児や保護者らでにぎわい、完売した。3*箱についてのアンケートも実施した。

販売実習には、JABA（静岡県アグリサポート）プログラム担い手育成支援事業の助成が活用された。

毎年、高校生の取材授業をさせていただいている、浜松湖北高校の生徒さんが、あそびこども園さんにて、高校生が作ったミカンの販売会を行いました。

箱もターゲット向けにデザインをし、普段ミカンを買わない世代に向けた販売促進をしました。

当社では、こども園さんとの繋がりを少しだけお手伝い。

今後も、地域の皆様に向けてお役立ちできる活動をしていきます。

令和3年(2021年)12月3日 (金)

日本農業新聞掲載

